



第74号

編集室 〒794-2114
愛媛県今治市吉海町
名2916-2 高龍寺内
TEL 0897-84-2129
FAX 0897-84-4495
Eメール info.koryuji@gmail.com
責任者 鴨井 智峯

令和8年11月23日決定

本尊ご開帳 新住職晋山式 山門新築落成

先代義圓和尚より法灯を引き継ぎ、高龍寺住職に晋山しましたのは平成元年の30歳の時でした。それより37年間、高龍寺住職として勤めて参りました。また副住職悠真は高野山大学を卒業し、仁和寺修行道場を経て帰山して16年目を迎えます。平成5年の本尊ご開帳より33年の節目に当たる今年、ご開帳に合わせて新住職の晋山式を執り行う運びとなりました。その記念の年に合わせて、高龍寺山門も新築落成の運びとさせていただきます。

総代世話人会で細かな計画が整いましたらご案内させていただきますので、今から秋の日を楽しみにご予約下さい。

鴨井智峯 合掌

2026年度 高龍寺 年中行事

島四国 4月18～20日
花まつり 5月24日
施餓鬼 8月18日
お焚き上げ 9月末頃
晋山式 11月23日
已正月 12月8日 ※初仏の檀家さんのみ
除夜の鐘 12月31日23時45分頃～



お経は大きな声ではっきりと 鴨井悠真

近年、若い方のお寺離れが深刻だとテレビなどでよく話題にされておりますが、本当にそうなのでしょうか？

確かに、昔とは仕事の形態が大きく変わり、ご法事ごとなどでも集まりにくくなったという事実はあるかと思います。しかしそれでも、いざご法事となれば、一生懸命お経を唱えてくださる方が大勢いらっしゃいます。

お寺離れというのは人々の生活様式が変わったことだけではなく、檀家さんの心を繋ぎ留めておくことができない我々僧侶の側にも問題があるのかもしれない。

話は変わるのですが、私はお経を唱える時にとても声が大きいといわれます。

私が大きな声を出すように心がけている理由は、お経は昔から「書いて有り難い、読んで有り難い、聞くだけでも有り難い」といわれているからです。そしてそれを皆さま方に聞いていただき、一緒にお唱えしたいと考えているからです。

先ほど申した通り、昔よりも仏教に触れる機会が減ったというだけで、しっかりとお経を唱えてあげたいと思っている方は大勢いらっしゃいます。

ただ、お経を唱えることに慣れていないせいで、小声で自信なさげな感じになっている

方もいます。人前で慣れない歌を大声で歌うことが恥ずかしいと考えるのに、似ているのかもしれない。

そのため私は、できるだけ大きな声でお唱えさせていただいているわけなのです。人に自分の声を聴かれるのが恥ずかしいという方でも、自分の声が聞こえないほどの声をこちらが出せば、気にならないのではないかと考えているのです。

お子様をびっくりさせてしまったり泣かせてしまったりとご迷惑をお掛けしてしまうこともあって恐縮しておりますが、ご容赦いただけますと幸いです。



今年のカレンダー

腰塚勝也住職（埼玉県久喜市 遍照院）が作画された令和8年度の高龍寺カレンダーが完成いたしました。

今年は四国八十八ヶ所霊場第七十番 本山寺本尊御前立像「馬頭観音」となります。

先着200枚を配布いたしますので、ご希望の方はお寺にお越しください。

空海様と最澄様の出会いと訣別に見るお二人が求めたもの。

高龍寺 鳴井智峯

日本の宗教上のお二人の巨星といえば、真言宗を開宗した空海様と、日本での天台宗を開宗された最澄様でしょう。このお話は空海様がまだ弘法大師ではなく、最澄様も伝教大師でもない時のお話です。お二人の出会いには延暦二十三年（八〇四）に行われた遣唐使船でしたが、お二人の立場は全く違ったものでした。出向する四艘の中で第一艘に乗船した空海様は留学生という立場で、自費で渡り二十年は帰国してはならないというものでした。通常、遣唐使船は二十〜三十年に一度派遣されていますので、一生の仕事として行くというものでした。かたや第二艘に乗船した最澄様は還学生という立場で、国費で行き通訳付きで帰国の船が来れば何時帰国しても良いという条件でした。今風にいえば、国会議員や官僚が海外視察に行くようなものでしょうか？ お二人に面識はなく、空海様は最澄様を知っていても最澄様は空海様のことを知らないという、それほど立場の違いがありました。

無名の空海様が大使の乗る第一艘で、国費で行く最澄様が第二艘だったことに関しては、空海様が語学堪能であったため、大使の通訳として乗船したといわれています。あとの二艘は遭難して唐に渡ることはできませんでしたが、お二人が乗った船は難破しながらも、どうにか唐に着くことができました。そして空海様は密教の奥義を求めて大使とともに長安へ、そして最澄様は天台山に登られ、お互いに求める仏法のために研鑽したのでした。空海様は恵果和尚に会って全ての法を授かり、その後高齢であった恵果和尚は遷化され、空海様は多くの弟子の中から選ばれて碑文を記されています。

その時、偶然にも遣唐使船が入港した知らせが入り、恵果和尚遷化の後はこちらに留まるのではなく、空海様は帰国することになりました。ルール違反の帰国ではありますが、この選択は正解でした。何故ならば、次の帰国船は空海様が高野山に入定された後のことでした。

二年での帰国にあたって、空海様は「御請来目録」を朝廷に提出します。現存する「御請来目録」はもちろん国宝で、その序文には「二十年の約束を破り帰国したことは死罪に値するけど、命に代えても請来出来たことは大きな喜び」と記し、持ち帰った膨大な目録が記されています。ところが、この「御請来目録」は空海様ではなく最澄様の筆によるものなのです。最澄様は密教の重要性を理解し、唐からいくつか持ち帰りましたが、無名の僧侶である空海様が体系的に完璧な密教を持ち帰ったことに驚嘆し、早い段階でそれらを写し取ったといわれています。

最澄様は帰国した空海様に弟子入りし、灌頂に入壇し、次々と經典の貸し出しを依頼します。これは全く異例のこととで、既に帝からも認められている最澄様が七歳も年下の帰国したての空海様に弟子入りしたということは、是が非でも法華と密教を融合させる手立てを考えていたという証拠です。最澄様が完成させようとした比叡山は、日本の仏教の総合大学を目指していました。そのためにテキストとなる經典がどうしても必要だったので。当初、空海様はその申し出を受けて經典の貸し出しに応じました。その時の手紙が「国宝風信帖」です。因みに「国宝御請来目録」は最澄様の筆、そして「風信帖」は空海様が最澄様に宛てた手紙ですから、どちらも比叡山に有るべきものなのですが、南北朝時代（一三四一）に比叡山延暦寺より東寺に奉納されています。もしそのまま比叡山に留めておられたら、信長の兵によって全て焼失したと考えられますので、空海様がどの様な思いで膨大な經典類を持ち帰ったことも、現代に伝わらなかったでしょう。そう考えれば、延暦寺から東寺に奉納されたことは一大事でした。

それでは何故七年に及ぶ交友が訣別に至ったのでしょうか。まず、最澄様は比叡山を日本の仏教の総合大学を目指したと考えられます。それが証拠に鎌倉時代にそれぞれ開宗された、法然・栄西・親鸞・道元・日蓮などの名立たる方々が比叡山で学び、後にそれぞれの宗派を開宗されています。最澄様は、そこに密教学科も必要だと考えたのは当然のことと、密教に関する經典や仏具曼荼羅などを完璧に所持し、体系的にマスターした空海様の存在は欠かせなかったのです。ですから最澄様は、法華・禅・浄土系などと並んで密教があると考えました。

しかし、空海様は密教の他の宗派はすべて一つのまとまりだと考えられていました。ですから、突き詰めて行けば行くほど、お二人の隔たりは大きく、お互いに妥協はできなかったのです。

最澄様が書き写されたことにより、空海様が篤い思いを持って入唐し、經典を死罪覚悟で持ち帰ったことが「御請来目録」によって分かります。それを基に空海様と最澄様のお二人を想像してみますと、空海様はダイナミックで誰も真似できない、とてもスケールの大きな方だと思われ、一方の最澄様は大変なエリートで、きっちりと整理整頓をされようとした方だと想像できます。このお二人のなし得たことはとても壮大で、熱意をもって求めた道に進むことが、人生において一番重要であると示して下さいました。私は、偉大なお二人を尊敬し、崇拜するものであります。